

神奈川県立鎌倉養護学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

|           |  |           |  |
|-----------|--|-----------|--|
| 審議会等名称    | 令和4年度 神奈川県立鎌倉養護学校第3回運営協議会  |           |  |
| 開催日時      | 令和5年2月16日(木) 午前9時30分～午前11時00分  |           |  |
| 開催場所      | 会議室  |           |  |
| 出席者       | 委員：12名<br>事務局：5名   |           |  |
| 次回開催予定日   | 未定   |           |  |
| 問い合わせ先    | 神奈川県立鎌倉養護学校 副校長 佐藤 浩栄<br>電話番号 0467-45-1951<br>ファックス番号 0467-43-4808   |           |  |
| 下欄に掲載するもの | 議事録  | 議事概要とした理由 |  |
| 審議(会議)経過  | <p>I. 学校長挨拶</p> <p>II. 学校運営に関するアンケート結果について(副校長)</p> <p><b>【質疑応答】</b></p> <p>(Aさん)：意思決定支援について、肯定的の評価の数値が上がっている。しかし意思決定支援について、保護者はどうとらえているのか疑問である。</p> <p>(Bさん)：意思決定支援とは何かがわからなかった。保護者がわかるように説明する必要がある。</p> <p>(Cさん)：意思決定支援について講習会等を実施している。まだ内容を知らない人が多いのが事実。学校の教員が理解しているかはまだまだと思われる。意思決定支援は人権尊重の基本なので、今後も継続して取り組んでほしい。</p> <p>(Dさん)：保護者面談などでも、個別に保護者に説明する必要があるのかもしれない。意思形成と意思表出に違いがありそうである。</p> <p>(Eさん)：わかって回答されているとは思えない。</p> <p>(Fさん)：アンケート回収率が伸びなかったことで、アンケートでの意見収集が難しい部分がある。個別面談の機会などを通じて、意見を汲み取ることも必要だろう。個別面談の話の中で、児童生徒の教育のみならず、運営について汲み取る仕組みはあるだろうか。</p> <p>(副校長)：個別面談の記録はクラスから報告があり、管理職も見ている。そこから困り感を共有することでできている。</p> <p>(Gさん)：学部別に分析するとよいのでは。</p> <p>(副校長)：意思決定支援についての回答率として、肯定的な回答が小：94%、中：100%、高A：84%、高B：95%、分：100%であった。高いように見えて低いところもあると感じる。</p> <p>(Hさん)：意味を正しくとらえているなら素晴らしいが、意味がとらえられていないならば正しく判断できない。意思決定支援は人権の基本になる部分なので大切にしてほしい。</p> <p>(副校長)：意思決定支援についてPTAの集まりの中で投げかけたことがある。PTA役</p> |           |  |

員では、理解しているという方がほとんどだったが。

(Iさん)：意思決定支援は高齢福祉の分野においても重要な問題である。高齢者が重篤な状況に陥り、自分の意志を伝えられなくなる前に、アドバイスケアプラン(ACP)で、本人が希望する医療措置を記録しておく方法があるが、ACPを作成するためには、本人との深い信頼関係が求められる。今回のアンケートでは、このような深い意味での意思決定支援を想定しているだろうか。

(Jさん)：神奈川県が入所施設利用の方用に意思決定支援のガイドラインを作成したが、それ以外の方用には、作られていない。

(Kさん)：親の思いと子どもの思いが違うように、学校と家庭の思いの違いがあるだろう

(Lさん)：すぐにできるとは思わないが、携帯電話などアンケートに回答しやすい環境づくりが必要なのかもしれない。リンクがはってあることや、文字入力しやすいようにして敷居を下げるなどの工夫が必要かもしれない。

(Mさん)：県と市でネットワーク管理の方法が違うので一概に言えないが、鎌倉市はデジタル化したことで意見が集まりやすくなっている。できればデジタル化を考えてみてはどうか

(Nさん)：「できている、できていない」の理由が不明になりがちなので、回答の理由がわかるようになるとうい。

(教頭)：いろいろなご意見を参考にしていきます。

### Ⅲ. 学校評価について (副校長)

#### 1 教育課程・学習指導

##### 【質疑応答】

(Aさん)：できあがったものは、(一般に)公開できるのか。

(副校長)：公開方法としては、各学校や総合教育センターに送付し、センターで閲覧できる。

(Bさん)：研修会はどのようなものがあるか。

(副校長)：学部別と全体研修がある。全体研修では、人権研修夏季公開意思決定支援を行った。学部ごとの研修は、摂食、ポジショニングなどを行っている。

#### 2 生徒指導・支援

##### 【質疑応答】

(Aさん)：授業実践を積み上げることについて、肢体不自由教育部門ではiPadを購入したが、ICT機器の利用については連絡帳的に記載されていた。何かを積み上げていくことへの難しさはあるのではないかと。

(教頭)：本校はネットワークが脆弱であり、ネットワークを利用した活用が十分ではないと思われる。

(Bさん)：特総研の研修に生徒3人をピックアップしたが、それはどう選んでいるのか。またそういう授業内容などがどうなっているのか。

(副校長)：研究の趣旨を説明し、研究に参加する職員を募ったところ3名の職員の希望がでた。内容としては、一つ目は、iPad操作についてどうしたらよいか

など具体的な活動を通して改善を図り、結果的に操作しやすくなった。二つ目は、意思を選択できる手段としての活用方法を相談した。

(Cさん)：神奈川県の特設支援校への ICT 環境の整備状況はどうなっていますか。

(教頭)：県の機器配備はあり、制限はあるが使っている。現在は個人のを接続することはできていない。

(校長)：今後、高校と同じように個人端末をつなぐときが来るかもしれない

(Dさん)：「一人ひとりの支援」として4年間の長期目標に掲げている。この目標に対して、組織的な改善が必要と感じる。安全なネットワークの環境整備を含めて、授業で使えるように整えていくこと的前提がないなかでの目標設定は、現状ミスマッチがあるのかもしれない。まずは前提を整えることが必要なのかもしれない。ICT 機器を積み上げるにしても、機器のない人は積み上げることができないのではないか。

(副校長)：学校の機器のできる部分があるので、教員の取り組みを進めていくことを第一歩として進めている。

(Eさん)：学校の授業の中で ICT を活用する時代にもかかわらずこの問題があるのなら、県当局に働きかけることが必要と思われる。機器不足のマイナス面はあるのだろうか。

(教頭)：iPad はクラスに一つはある状況である。

(校長)：一人一台端末があり、個人に適した設定にすることがベターなことは理解している。あわせて学校の中で教員が理解して活用することが大切と考える。

(Fさん)：ICT を授業で活用するためには、閲覧するコンテンツが必要である。玉縄地域の地域情報サービスとして「マイタウン玉縄」(<http://www.tamanawa.net/>)があるので参照してほしい。

(Gさん)：訪問教育の方への活用はどのように行っているか。

(教頭)：訪問教育にも使っている。在宅訪問時の自宅の機器を使って行うことがある。

(校長)：学校と外部をつないで、ライブ中継的に使うことも行っている。

(Hさん)：理解度に関して、担任していない先生がいて数値が低いとあった。授業を行わない医療職や教員以外の方といった異業種の方との価値観の違いをうまくやる必要がある。このあたりでアンケート結果が変わっているのかもしれない。組織としては互いにリスペクトできる環境が大切と考える。

(校長)：本校は看護師配置が県で2番目に多い。その中で教員との意見交換はできている。

(指導 G)：級外と学部担任の関係性の大切さは痛感する。GL が間に入って調整することが必要である。看護師一人ひとりが児童生徒のことを考えているが、それをうまく担任に伝えることが必要である。そうしたやりとりがうまくできるようにしていく必要がある。

(Iさん)：専門職との関係は難しいが、がんばってほしい。

### 3 進路指導・支援

#### 【質疑応答】

特になし

#### 4 地域との連携

##### 【質疑応答】

- (Aさん)：ICTとも連携するがマイタウン玉縄のページを見てほしい。地域の人は公園マップなどを作っている。生徒の散歩などによいのでは。外出支援につなげてほしい。地域でも情報発信しているので、利用してほしい。
- (校長)：学校だよりなどで地域へ協力していきたい。
- (Bさん)：学校だよりを地域に出しているが、意思決定支援についても掲載してみたいか。福祉避難所の例でPTAでも知らない人がいた。保護者が知らない情報を発信してもらえればよいのでは。
- (Cさん)：以前、A部門で地域の方と一緒に、避難所体験を学習する授業を行った。過去にも何回かやったことがある。生徒には見知らぬ人で緊張しながらどう行動したらよいかを学習している。地域側でも障害のある生徒との関わりを初めて行うことができる。地域の人は意思確認の方法を知る経験があれば災害時にも役立つことではある。結果を広げて伝えることで生かせるだろう。どう関わるかを知ることや伝えていくことで良い形になるだろう。
- (Dさん)：資源一覧の作成は途中だが、授業の中で関係する情報だけなのか、その他の情報も含めていくのか。地域のマップ作りではテーマをはっきりさせて、テーマ別にしたほうがわかりやすい。全体網羅も大切だがテーマ別が見えやすいと思う。

#### 5 学校管理・学校運営

##### 【質疑応答】

- (Aさん)：ヒヤリハットの検討会について、とかく「気をつけようね」で終わりがちだが、業務改善や環境整備などを通して、ヒヤリハットを未然に防げる仕組みを作り出す会議にしてほしい。
- (Bさん)：社会福祉協議会で福祉防災の研修会があるのでご参加ください。
- (Cさん)：福祉避難所について、もう少しで福祉避難所マニュアルができる。ただし要支援の方について悩むことがあると思われる。まず避難する場所は、地域の一次避難所になるが、要支援の方は自宅が避難所となるだろう。一次避難所へ物資が集まった場合、避難所と自宅をどうつなぐかがポイントとなる。もう一つは個別避難計画を考える必要がある。行政や支援に頼るだけでなく主体的に命を守ることが必要である。行政側はそれぞれの困難を吸い上げる仕事をしているが、一人ひとりの課題や問題点が違うので、全部を満足できる避難所は難しい。行政に困り感を伝えることが必要である。鎌倉の防災士の間では、今年避難所訓練について復活を考えている。まずは課題が集まるようにしていく活動としたい。

#### IV. 不祥事ゼロプログラムについて (副校長)

##### 1 人権に配慮した授業づくり

##### 【質疑応答】

特になし

V. 次年度の学校運営協議会のありかた（副校長）

【質疑応答】

特になし

VI. 連絡事項（副校長）

【質疑応答】

（Aさん）：京都の例として、京都は福祉車両のみでなくタクシーが使える。要望上の枠を広げる考え方が必要である。

VII まとめ（校長）

本日は、ありがとうございました。鎌倉養護学校としては最後で、次は鎌倉支援学校になります。働き方改革と言われているが、退職教員が多く、負担感も大きくなってきている現実があります。笑顔で働ける、働き甲斐のある学校づくりをしていきたいと考えます。